

宇宙科学研究所 鹿児島宇宙空間観測所  
(KAGOSHIMA SPACE CENTER (KSC))

この観測所は宇宙科学研究のための施設です。ここでは宇宙を研究するための観測器をのせたロケット、人工衛星、探査機の打上げ、またこの為に研究開発されたロケットの飛翔実験などが行われています。

各施設は起伏の多い地勢の山頂を削って造成した台地ごとに、管理センター・コントロールセンター・Mロケットセンター・KSロケットセンター・衛星追跡センター・テレメータセンター・軌道計算センター及び宇宙科学資料センター等が機能的に配置されており、世界に類のない特色のある偉容を誇っています。

観測所は所長以下18人(60・3・1現在)の職員により、一般的な管理事務や施設の維持等運営が行なわれています。ロケットの打上げ及び衛星の運用については、必要に応じて関係職員等が派遣され、次のような作業が行われます。観測ロケットの組立、電波テスト、発射、データ取得、人工衛星、探査機の打上げでは、搭載機器、第3段モータ、ノーズフェアリング等上段部組立や動作チェック、第1段モータセグメント、第2段モータ、補助ブースタ、段間結合部、制御部、搭載機器部等1・2段組立、全段結合、電波テスト、発射、軌道投入、データ取得や衛星の運用、管制等です。

昭和60年12月現在13箇の試験、科学観測衛星、昭和60年1月には我が国初の人工惑星「さきがけ」同年8月

には「すいせい」がハレー彗星に向けて打上げられ、また289機の試験、観測ロケットが打上げられました。

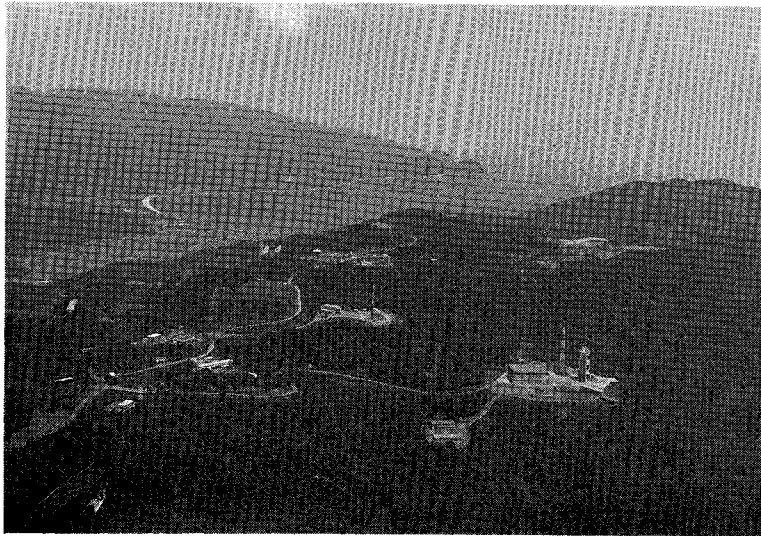
はるばるこの観測所を訪問される方々に、宇宙探求の理解を深める役に立てるため、宇宙科学資料センターがあり、ロケット、科学衛星、宇宙観測機器、観測所等の実物模型や写真等が展示され、開発の過程や歴史を知ることが出来ます。このセンターの公開時間は午前9時から午後4時まで、但し1月1日～4日は午前9時30分～午後2時30分までです。休館日は毎週木曜日と12月28日から31日までです。

観測所への道順は鹿児島市鴨池港から大隅半島垂水へフェリーで渡り、垂水～鹿屋、鹿屋～内之浦間は鹿児島交通のバスがありますが、鹿屋～内之浦間は1日2～3便だけです。また、鹿児島空港から車で約2時間、100kmの道程です。大阪からはフェリーで志布志に渡り志布志からバスで内之浦へという方法もあります。

最後に観測所のある内之浦町を紹介しましょう。

人口は6000人で、檳榔樹、蘇鉄が生い茂る南国情緒豊かな町で、内之浦湾ではハマチ、鯛、フグの養殖が盛んです。観測所のMセンターの近くでは、黒鯛、石鯛等が釣れ、休日には太公望で賑っています。産物にはボンカン、八朔等の果物や絹さやがあります。

観光としては、蘇鉄の実が海流によって流れつき自生したと云われる蘇鉄の群生地「火崎」があり、対岸には野生馬の都井岬が望まれ、最南端の佐多岬には車で3時間の行程です。  
(桜井洋子)



昭和61年11月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内  
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12  
定価 450 円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内  
電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359

社団法人 日本天文学会  
啓文堂 松本印刷  
社団法人 日本天文学会  
振替口座 東京 6-13595